

# 町民の広場

田中 晴奈さん  
(20歳)

◆今月は、田中晴奈さんに倶知安町や初めての投票についてインタビューしました。

Q 友達とは普段どんなお話をしていますか。

A 仕事の話とか、飲み会の話、恋愛などの話を良くします。時には街の話題が出たりします。

Q 街の話題ですが、どんな事を話しますか。

A たとえば、じゃが祭りなどとても楽しいのですが、花火をもっと盛大にして、日曜日じゃなく土曜日だと沢山の見物客が来るのではとか、おしゃれなレストランや、野菜、果物があって、広くてゆったり過ごせる広場(道の駅など)があるといいね、など話しています。ピアガーデンがあるのもっと良いと思います。

また、私は朝野球のチームにマネージャーと

して参加していますが、様々な年代の方々と交流がさまざま出来るのでとても楽しいです。色々な年代の方々と交流が出来る機会があると良いと思います。

Q 今回の参議院議員選挙は、初めての選挙でしたが、投票に行きましたか。

A 投票しました。とても緊張しました。とて期日前投票をしたのですが、やり方が分らず、少し戸惑いましたが、無事投票をしました。

Q 投票をしての感想はありますか。

A 今回は国政選挙でしたので、身近にあまり感じませんでした。町長選挙、町議選挙だともっと身近に感じる事が出来ると思います。

この一票がどのように世の中が変わるのかな、という疑問もありました。が、まずこの一票が無ければ始まらないとも思いました。

Q そうですね。その一票が大切ですね。その一町や、議会に何かご意見がありますか。

A 給料を初めてもらった時、税金、年金、保険料が思った以上に高いのに驚きました。

また、外国の方や、観光客が多く来て、ホテルなどが沢山建って、観光都市になっていきます。それなのに何時も「町財政が大変です」と言っているのはどうしてですか。また年金も将来本当にきちんと貰えるかも心配です。

私たちが若い人が安心して働き、子どもを育て暮らせる町にして貰いたいと思います。

Q 最後に議会広報紙を年に4回発行していますか。

A 見たことはありますが読んで事はありません。町報と一緒に配達されますが、白黒で、文字ばかりで暗そうなので読む気になりません。もっと写真が多くて、カラーだと良いと思います。

◆ご意見、協力を、ありがとうございます。

## 議長室からこんにちは

「後の雛」(のちのひな)という風習をご存知ですか？ 後の雛は江戸時代に親しまれた風習ですが、平成の今は、大人の雛祭り」と称され注目されているらしいですが、もっと素敵に秋を彩るために、「後の雛」楽しい響きの言葉ですね。9月9日に行われていた年中行事で、菊を用いて不老長寿を願うことから別名「菊の節句」とも言われ、昔は節句中でも最も盛んに行われていたと言われています。行事の心や風情に魅力があるためでしょう。昔からの行事は1年を通じて人生や暮らしの営みを表しており、毎年それらを繰り返すことで人生を豊かにしてきたさうであります。

今年の倶知安の農産物はわりかし順調で豊作とまでにはほど遠いのですが、今年並みの収穫が期待できるようです。倶知安町議会も開かれた議会、町民目



線の議会を目指して着々とその成果を上げています。北海道内でも自慢できる地方議会になっていきます。しかし、どんなに議員が懸命に町と議論をしても町民の方の意見や要望とかみ合わないところもあります。「議会議員は町民の代表である」それを念頭にこれからも前を向いて、より町民の皆様の声を反映させることの出来る議会を目指します。

最近の新聞に北海道議会の会派で「北海道分県研究会」を設立し、北海道を複数の県に分割する「分県論」の議論を始めたとの記事が掲載されていました。「知事一人では、広大な北海道の地域課題に目が行き届かない」と指摘していますが、私はこの広い大地「北海道」をあえて小さくして知事を二人三人にする案には合点がいきません。近年の道議会は一票の格差は正、逆転区の解消と称して管内の道議会議員の定数を減らしています。住民不在の数の理論が先に立ち道議会だけで決定したのです。

住民の声をどのように反映していくのかは、道議会も町村議会もみな同じです。議員が住民との触れ合いを忘れてはなりません。これからも「みんなのための議会」そして「役場の心」を大切にします。この豊潤な秋をお楽しみください。

倶知安町議会議長 鈴木 保昭